

地方公共団体名： 福井県美浜町

○提案内容

<p>(1) 実現したい都市のビジョン</p> <p>■ステップ. 1 福井県美浜町は、第5次美浜町総合振興計画(H28.3)、都市計画マスタープラン(H23.9)及び立地適正化計画(H31.3予定)に基づくまちづくりを中心に「スマート・コンパクトシティ魅力創造拠点化事業」として、「JR美浜駅」「役場・なびあす・はあとびあ」といった公共交通機関と、公共施設とを結ぶ「南北の軸」とJR小浜線、国道27号、町道佐柿・郷市線といった広域圏や町内の生活拠点同士を結ぶ「東西の軸」を二つの大きな軸として、その軸が交わる地点付近に「地域づくり拠点化施設(以下、道の駅)」の整備を予定している。</p> <p>この道の駅は「人々が集い、育(はぐく)み、美(うま)し美浜を体感できるにぎわいの交流拠点づくり」をコンセプトとして掲げ、「町民中心のまちのにぎわい・地域住民の交流拠点」及び「美浜町の魅力がスマートかつコンパクトなまちづくり拠点」に重点を置き、2021年度中の供用開始を目指している。</p> <p>また、2022年度の北陸新幹線敦賀開業を見据え、今まで以上に観光客の訪問が見込まれることから、道の駅の情報提供コーナーでは交通・防災・行政・観光等の町民や観光客がわかりやすく且つ有益な情報を発信することが重要である。しかし、他道の駅の事例を見ると、あくまでその道路管理者の範疇に限定した情報がほとんどで、それ以外の情報はインターネットサイトを単独に集めて配信しているだけであり、地域に合わせた有益な情報とは言い難い。</p> <p>本町では関係行政機関(国、県、NEXCO、警察、消防、隣接市町等)や町内の飲食店・商業施設等と連携を図り、町内の交通情報や利用者が必要とする隣接する市町の情報などを協働して配信することで、利用者(享受側)の生活利便性の向上を図ることはもちろん、提供側(行政、各種組織、事業者、町民グループほか)にとっても情報を上げやすく(入力しやすい)、扱いやすく、さらに更新継続できる仕組みを作ることを目標とする。</p> <p>■ステップ. 2 本町では道の駅を地域づくりの拠点と位置付け、美浜駅前の再開発、役場周辺との一体的な整備を行うことで、まちの中心部に商業施設や公共施設がまとまって立地し、多世代の住民が公共交通により生活利便施設に円滑に移動できる「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指す。そこで、上記ステップ. 1で構築した仕組みをベースに、地方部の小規模自治体が抱える交通手段の確保や物流にかかる諸課題について、IT技術を駆使し予約、集積、配達などの複数の機能を一括して効率的に運用するための機能を追加することで、地域活性化(縮退化する地域コミュニティを維持させる)を図るとともに、まちの中心部と各集落とのつながりづくりをサポートすることを最終目標とする。</p>	
<p>(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題 ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)</p>	
<p>解決する課題のイメージ</p>	<p>課題の分類</p>
<p>■ステップ. 1 道の駅で取り扱う情報としては、大きく交通・防災・観光・行政の4つの情報があるが、基本的にそれぞれが独立して情報提供されていることに加え、多種多様な情報提供手法(インターネットサイト・スマホアプリ・SNS・テレビ等)が存在する為、情報を受け取る利用者(享受側)の立場で考えると、本当に欲しい情報に辿り着けないのが現状である。</p> <p>これら4つの情報は、提供する機関が個別に配信していることで、住民が情報に辿り着けなくなっている為、町が中心となって各関係者との協働体制を作り、利用者にとって使いやすく且つ提供者にとっても情報を上げやすいものにしていく必要がある。</p> <p>また、防災情報や交通情報は、基本的に有事の際にしか見ることがないという性格上、有事の際になかなか使えないという問題が多々ある。普段から使い慣れているサイトやアプリは、有事の際にも容易に使うことができるという観点から考えると、普段使うもの(観光、行政)と有事の際に使うもの(交通、防災)を結合して見れる(使える)環境を整える必要がある。なお、普段使うものとして、子育て世代が必要とする情報(子育て支援センター等のイベント情報・子育て相談窓口情報・各種予約状況)の配信も視野に入れていきたい。</p>	<p>(ア) (オ) (キ) (コ)</p>
<p>■ステップ. 2 美浜町では、高齢化世帯(買い物難民)が町全世帯の3割を占めており、高齢者免許返納による交通手段の確保が喫緊の課題である。現状では、町民の公共交通手段としてコミュニティバスを運行しているが、利用者が少なく非効率となっている為、多世代の住民がもっと利用しやすくなるように、町の中心である道の駅とコミュニティバスを連携させた複数機能(デマンド予約機能、農産物集積機能、買い物代行機能、宅配物受け取り機能など)の付加が必要である。</p>	

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

■ステップ. 1

4つの情報(交通・防災・観光・行政)を町民や観光客がいつでも・どこでも・リアルタイムに受け取る為の「美浜町スマートアプリ(以下、アプリ)」を構築する。全体システム構成としては、住民のスマートフォン(iPhone、Andriod)にインストールされるアプリと、各種情報を集約しアプリに配信するクラウドサーバで構成するが、クラウドサーバへの集約方法は以下を想定している。

- ①交通情報:各道路管理者(国、県、NEXCO)の通行規制情報・カメラ情報・気象情報等を、福井県情報スーパーハイウェイを介して福井県庁内のITS協議会で構築した既存システムとのIP接続により収集する。
- ②防災情報:美浜町防災行政無線システムとのIP接続により収集する。
- ③観光情報:美浜町の主要公共施設・観光施設・商業施設にアプリがインストールされたタブレット端末を配布し、各施設のイベント情報等(文字・写真・動画)をリアルタイムにアップロードしてもらうことで収集する。
- ④行政情報:美浜町ホームページを作成している既存システムとのIP接続により収集する。(町公開のオープンデータ含む)

集約された情報は、アプリ上のGIS地図で統合的に表示し、緊急度の高い情報やイベント情報はプッシュ通知を行う。

■ステップ. 2

上記ステップ. 1で構築したアプリに以下の多喜納(多機能)型交通物流機能を追加し、道の駅やコミュニティバスにそれぞれ通信端末を設置することを想定している。

・デマンド予約機能

アプリからコミュニティバスの予約をすると、自動的に最寄りのバス停まで迎えに行く。バスが最も効率的に走行するためのルートや時間配分などを設定し、おおよその待ち時間をお知らせする。

・農産物集積機能

農家の人の需要に応じて最寄りのバス停で農産物の集積を行う。

・買い物代行機能

高齢者等の交通難民が、アプリで欲しい商品を入力しコミュニティバス等にて最寄のバス停まで届けてもらう。

・宅配物受取機能

運送会社の配送時に留守だった場合、道の駅を配送拠点として再配送を行うため、アプリ上で情報共有を行う。

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

全体的なスケジュールとして、以下を想定している。

■2019年度 ステップ. 1 アプリ構築及び住民ワークショップ(事前ニーズ調査等)の開催

「アプリのプッシュ通知や情報の見せ方で情報の浸透性が上がるのか」、「普段から見る情報(観光・行政)と有事の際に見る情報(交通・防災)を統合することで有事の際の情報の浸透性が上がるのか」、「観光施設・飲食店・宿泊施設等の情報が統合されることで観光客の利便性が上がるのか」を検証する。イベント情報を入力する対象施設については、既存の主要公共施設に加え、道の駅オープンに合わせて、現在整備中の各観光施設等を対象に、役場内にて事業説明会を実施する。また、アプリの有効性の検証については、美浜町より住民に対してモニターの公募を行い、一定期間使用後、アンケートにより有効性の確認を行う。モニター数はイベント入力施設も合わせて概ね100名程度を目標とし年代別を実施する。また、アプリの利用状況の詳細を、サーバのアクセスログで集計し、アクセス数の多い情報や時間帯について検証を行う。検証結果に基づき、アプリの完成版を構築する。

■2020~21年度 ステップ. 2 アプリに多喜納(多機能)型交通物流機能の追加

2021年度の道の駅完成に合わせ、コミュニティバスと道の駅(農産物集積場、宅配物預かり所)を連携させた多喜納(多機能)型交通物流機能をアプリに追加する。道の駅オープンまでに具体的な運用ルールの策定、住民や農家への説明会実施、宅配会社との協議を行う。

また、道の駅情報提供コーナーではアプリで集約された町民や観光客にとって有益な情報を時期や状況に合わせて配信し、道の駅を町民の為の拠点としてはもちろんのこと、【観光拠点】及び【防災拠点】としても確立させる。

■2022年度 北陸新幹線敦賀開業に合わせ本格運用。

継続的な運用・発展のために、毎年度アプリの効果検証・分析等を実施した上で、そこから抽出された課題等を元に対策(ソフトウェア改修)案を検討し、バージョンアップを図っていく。その為の予算措置を継続して実行していく準備がある。また、国土交通省の道の駅構想による他道の駅との情報連携を実施していくことで、更なる機能の高度化を図っていく。

(5) その他

【参考資料】都市におけるICT関連先進的技術を活用したスマートシティ実証業務の企画提案書

美浜町スマート・アプリ開発検討協議会

美浜町、株式会社ほくつ福井支社、国立大学法人福井大学、一般財団法人日本みち研究所

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
土木建築課 街づくり推進室	主事 和多田 康宏	0770-32-6707	watada.101@town.fukui-mihama.lg.jp